

文化財センター通信

【かぎぐるま】

風車

第 20 号

平成18年3月3日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター



第2回現地説明会風景

太田・黒田遺跡（県1次） 発掘調査 概要報告2

太田・黒田遺跡の発掘調査で 弥生時代中期の竪穴住居を発見！

（報告 仲原知之）



昨年の8月末より実施していた太田・黒田遺跡の発掘調査が12月末に終了しました。『風車』第17号で、調査途中段階での概要報告をおこないましたので、今回はそれ以降に見つかった遺構や調査でわかってきた所見を簡単に報告したいと思います。

B区の調査概要

調査区の東半分にあたるB区では、西半分のA区と同様に江戸時代・奈良時代・弥生時代の各時期における遺構面を調査しました。

3層上面（2層下面）では、江戸時代以降に造られた南北方向（一部は東西に直交）に並行する^{すきみぞ}鋤溝群を検出しました。調査地一帯がその頃耕作地であったことがわかります。

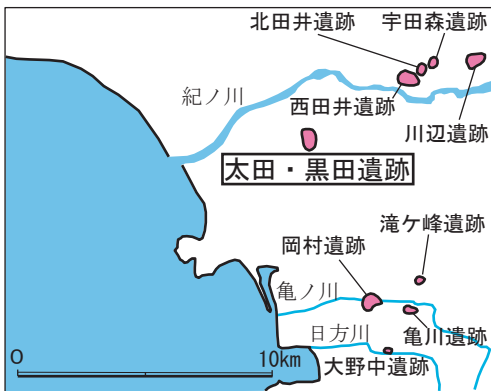
3・2層上面では、奈良時代の流路や溝、大形土坑^{どこう}などを検出しました。溝に並行する位置で等間隔に連続して並ぶ土坑群も検出できました。

4層上面では、弥生時代の溝や土坑、^{たてあな}竪穴住居、炭化物を多く含む土坑などを検出しました。これらの遺構は弥生時代中期（中葉〜後葉）の時期に造られたものです。

— 第20号の主な内容 —

1. 太田・黒田遺跡（県1次）
発掘調査 概要報告2
2. 太田・黒田遺跡
第2回現地説明会の報告
3. コラム【考古学の散歩道】
— 金沢城と和歌山城 —

今回の調査区は、これまでほとんど実態がわからなかった遺跡の東側縁辺部にあたります。竪穴住居は1棟しか検出できませんでしたが、遺跡の東端部まで集落の居住域が広がっていることが確認できたことは重要な成果になりました。



太田・黒田遺跡周辺 弥生時代遺跡 位置図

竪穴住居について

調査区南東隅で検出した円形の住居跡で、検出規模は東西約7m・南北約4mで、南半分は調査区外で調査できませんでした。住居床面で3条の壁溝が検出でき、断面の観察により内側から外側へ壁溝が掘り直された状況を確認しました。住居内ではピットを複数検出し、そのうち3〜5基は住居を支える柱穴と考えられます。住居の埋土では炭化物や焼土層が確認でき、焼失して廃棄された住居と推測できます。住居内では完形品の壺や甕などの弥生土器が数個体出土して、火災時に持ち出されずに残されたと考えられます。



弥生時代中期の竪穴住居（遺構300）

住居を取り囲む溝

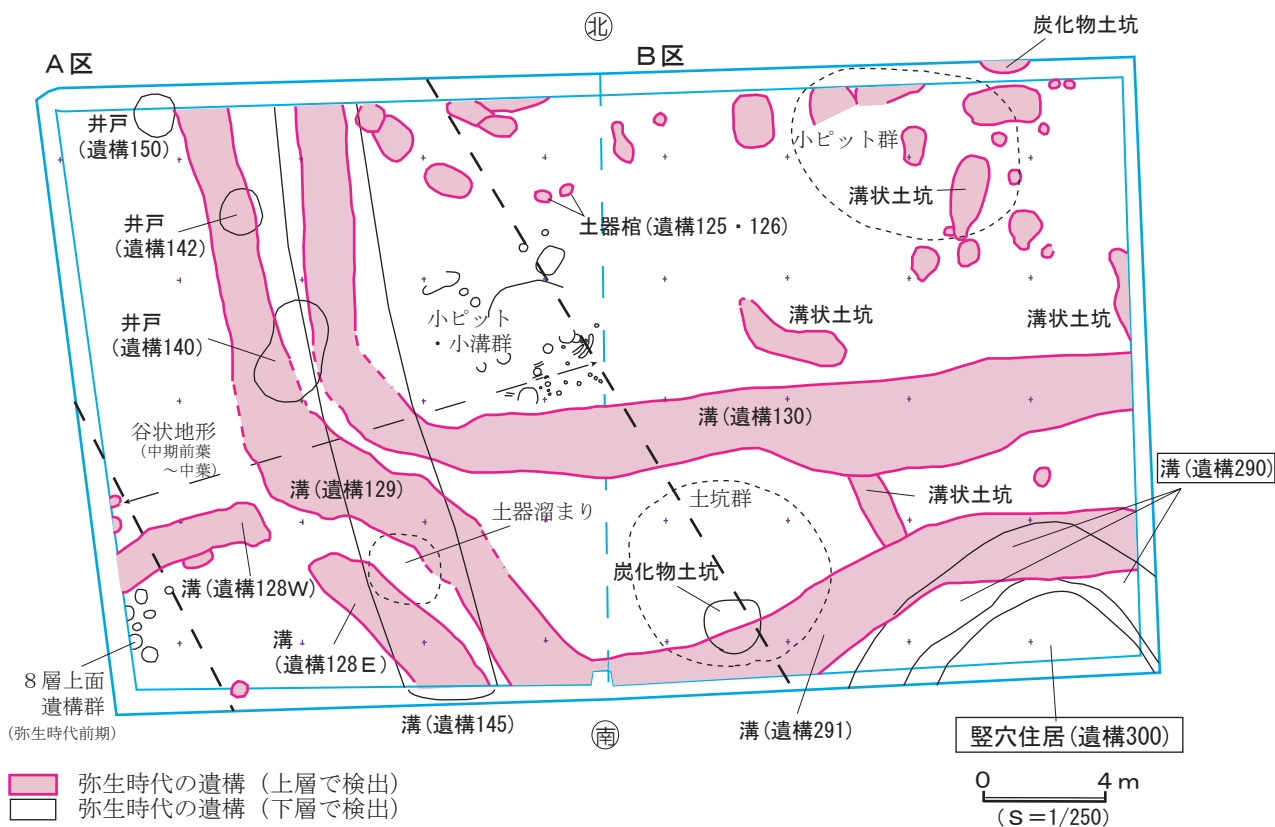
住居を取り囲む幅2〜3mの溝が検出でき、住居との切り合いが確認できないなど同時期に存在したと判断しました。埋土上層から多量の土器が捨てられた状況で出土しました。



竪穴住居を取り囲む溝（遺構290）



竪穴住居内で出土した弥生土器



4層上面遺構検出状況 <弥生時代>

太田・黒田遺跡 第2回現地説明会の報告

平成17年12月10日(土) 13時半～15時半開催(晴れ)

報告 仲原(※は報告者のコメント)

1. 参加者について 参加者86名(男性56名・女性30名)

内訳 和歌山市太田及び黒田地元26名 その他の市町村20名

その他の和歌山市内34名 不明6名

*その他の市町村の内訳 県内4名(紀の川市2・広川町1・湯浅町1)、

大阪府10名、奈良県10名、京都府1名、兵庫県1名

*名簿に記入していない人を含めると実際は約100名弱の参加者になる。

*前回(第1回説明会)は参加者67名(男性44名・女性23名)

うち地元32名・その他和歌山市29名・その他市町村4名・不明2名。

*前回に比べて、他府県などの和歌山市以外から来られた人が多くなった。

*前回よりは他地域への宣伝はできたが、地元で多く呼ばなかったことは課題。

2. アンケート結果(回答34名 うち男性15名・女性19名)

【年齢】男性 10代0名 20代2名 30代0名 40代2名

50代5名 60代5名 70代1名 80代以上1名

女性 10代5名(小学生3・大学生2) 20代0名 30代0名

40代3名 50代7名 60代3名 70代0名 80代以上1名

*前回と違って小学生の参加者が増えた(約10名くらいの参加者)。

*前回と違い10代後半は増えたが、前回同様に20代・30代の参加者は少ない。

【今回の発掘調査の第1回現地公開(今年10月8日)に来ましたか?】

a. 来た: 2名 b. 来てない: 27名 c. 行けなかった: 5名

*予想以上に前回参加者が少ない。リピーターをつかまえる工夫が必要。

【他の遺跡の現地説明会について】

a. 何度も行った: 6名 b. 近くなら行く: 7名 c. 初めて: 19名

*始めて来た人の割合が多い。近くなら行く人と合わせて地元での関心の高さ。

*地方版しか掲載されなくても、宣伝により何度も足を運ぶ人(他府県)が来る。

【現地説明会についてどこで情報を知りましたか?】

a. 新聞: 12名(朝日新聞・毎日新聞・テレビ和歌山のニュース)

b. 調査現場の案内板: 5名 c. 自治会の回覧板: 6名

d. センターのホームページ: 1名 e. 現地説明会のチラシ: 6名

f. インターネット: 0名 g. 知人から: 3名 h. その他: 2名

*前は新聞11名、インターネット1名、知人1名、案内板6名、回覧板1名。

*前回より宣伝期間も長く(回覧板等)、宣伝範囲も少し広がった結果が現れた。

*新聞の効果は大きい、今回のように全紙に掲載されないと、宣伝方法が課題。

*調査現場の案内や自治会の回覧板など地元の人たち向けの宣伝は効果があった。

*お知らせ(チラシ)の配布も効果があるが、配布方法や配布先など検討が必要。

*現地説明会の案内は、発表内容決定が1～2週間前と宣伝する期間が短い。

*当日、今城塚古墳や京都・滋賀で現地説明会があったが他府県からも来た。

【今回の現地説明会についての感想】

10代前半女性 弥生・奈良時代の詳しい説明だったので良かった。/学校

で今やっているのわかりやすい。/市内でも遺跡が見つかりチヨイ感激

10代後半女性 土器が触れて嬉しかった。/昔の遺跡が見れてよかった。

/土器を直接手に取れた事が印象的。

20代男性 もう少し遺構の近くで見たい。/ネットで地図を載せてほしい。

40代女性 初めてでびつくり、本でみたとおりで実際にみてよかった。

40代男性 触れて大変良かった。/地元で土器展示コーナー作ってほしい。

50代女性 発掘したものだと思感できた。/ロマンを感じた。/身近に遺跡

があった事を知りませんでした。

50代男性 直接触れて良かった。/地元史を知らないなのでこの機会に勉強

したい。/積極的に告知して欲しい。ホームページを見れる人は限られる。

60代男性 見るだけではわからないが、説明を聞くとよくわかった。

*土器などの遺物を直接触れるということが非常に好評だったといえる。

*広く宣伝する方法が課題。新聞以外の一般向けの宣伝方法を考える必要。

コラム【考古学の散歩道 その11.】

金沢城と和歌山城

先日、金沢市内を訪れることがあり、少し時間があつたので足をのばして金沢城を見学することにしました。昨年、水軒堤防（和歌山市西浜）の石積み堤防の発掘調査を担当したことで、多少石垣（石積み）に興味を持っていたので、石垣の観察を中心に金沢城内を見学しました。

金沢城の石垣普請は前田利家の治世、文禄元年（一五九二）に始まり、段階的に石垣整備が進みました。石垣完成後もたびたび修理が繰り返されてきました。金沢城の石垣は、整備や修理の時期ごとに石積みの技法や様式が変遷していきます。そのことが文献資料の分析や発掘調査の結果などにより明らかにされてきています。このことは日本の城郭史にとって重要な成果となっています。

城内を見学して感じたことは、金沢城を「石垣の博物館」と銘打って、石垣の時代的変遷とその石垣の場所を記したパンフレットを作成し、石



金沢城：本丸丑寅櫓下石垣（16世紀末）
うしとらやぐらした



金沢城：二ノ丸橋爪門続櫓石垣（19世紀前半）
はしつめもんつづきやぐら



和歌山城：山吹溪石垣（16世紀末）
やまぶきだに



和歌山城：松の丸櫓台石垣（18世紀前半）
やぐらだい

垣前に説明板があつて石垣の変遷をたどる散策コースを設けていることです。これによって石積み技法の違いが一目でわかることができ、考古学上の成果を一般の人たちにわかりやすく伝えようとする活動が伺えます。金沢城には観光客をはじめ、散歩に訪れる地元の人たちも多く、そういう人たちも石垣の前にふと立ち止まる姿を見かけました。

一方和歌山城は、羽柴秀吉の紀州攻め後の天正一三年（一五八五）に構築された結晶片岩の石垣、一七世紀初頭の浅野家が築いた砂岩の石垣、紀州徳川家入城以降の切石を用いた石垣へと変遷がたどれます。しかし、観光客や散歩する人は同じように多いけれど、説明板は少ないように思います。城内を歩いていても石垣の時期や変遷などを知ることができません。和歌山城の石垣は全国にも誇れるくらい堅固で立派に造られており、決して金沢城に見劣りしません。このことをもっと多くの人に知ってもらえるように整備や説明がおこなわれることを心から希望しています。（仲原知之）

風車 第20号

平成18年3月3日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel : 073 (433) 3843

Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp

《編集後記》 太田・黒田遺跡の発掘調査については、来年度に整理作業を実施する予定です。興味のある方は遺物の見学にお越し下さい。

(仲原)



金沢城
橋爪門続櫓
・五十間長屋
(平成13年復元)

和歌山城
天守閣

(昭和33年再建)

